

第3章 千早赤阪村

千早赤阪村の地形は、ほとんどが金剛山地に連なる山地と谷からなっており、北部にわずかに段丘状の地形がみられます。

谷部の多くは、千早川とその支流によって浸食されたもので、複数の河川が小さな谷や台地を形成するため、複雑な地形となっています。

千早川は村の北部、森屋付近から河南町、富田林市をへて石川に注ぎ込みます。

北へと流れる千早川を境として、東側に河南台地が、西側には寛弘寺遺跡や寛弘寺古墳群が分布する台地が川に沿ってみられます。

これらの台地もまた、千早川の浸食によって形成された地形と考えられます。

今回取り上げる遺跡では、川野辺遺跡が河南台地の南端に位置し、出合遺跡と誕生地遺跡は、千早川とその支流が形成した小さな台地上にあります。

千早赤阪村では、縄文時代や弥生時代の遺跡はほとんど確認されていません。

古墳時代の遺跡としては、森屋古墳群や御旅所古墳・御旅所北古墳などが知られており、御旅所古墳と御旅所北古墳は、村内でこの二基のみが調査されています。

また、千早赤阪村は、南北朝時代の舞台の一つとなった場所であり、同時期の遺跡が多くみられます。